

太閤山あおい園 施設評価 (平成 30 年度)

決算報告

資金収支についての詳細は別紙(決算書参照)

平成 27 年度に新制度に移行後、資金収支は改善に向かっており、順調な決算である。新規職員採用が困難な中、人材紹介会社を利用せざるを得ない状況があり、採用費の割合が増大している。

保護者アンケート

保護者アンケートでは、8 割以上の保護者の方に、A、B の評価を頂いた。個別の改善点(「保護者アンケート結果」参照)については、今後具体的に解消に努めたい。

特に平成 30 年度は、鼓隊演奏は運動会のみで行うことにし、作品展の形やその他の行事内容についても変更してきたため、「1 年全体を通して、昨年と比べると、色々と簡略化されているように感じた。先生方の負担を考えると仕方ないのかなと思うが、昨年と比べてしまう。」「行事が縮小され、子どもの負担が少なくなり、楽しそう」など様々な意見を頂いた。

「子どもの 10 の姿」を踏まえ、将来子ども達が自分の道を切り開く力を身に付くように、「頑張れば出来る!」という経験をさせること、主体的な遊びをバランスよく両立させることができるように。との考えで変更したものだったが、今後の教育方針などについての説明を今後も丁寧に行っていく必要がある。

また、働き方改革に向けた業務負担軽減、等を踏まえ、行事の内容や準備の簡素化を今後も進めたい。

職員自己評価

キャリアパスの導入に合わせ、平成 29 年度より自己評価・園長評価の項目を一新した。評価の基準も、「A:他の保育者に指導できる、B:自らの力で出来る、C:指導されれば出来る、D:まだ出来ない」という、自分個人の能力だけではなく、園の中での自分の果たすべき役割を意識した基準となっている。

(調査項目については「職員自己評価」を参照)

職員評価総評

保育者として最低限必要な部分については A,B がほとんどを占めており、職員の自己評価に比べ、園長・主任評価の方が高いという結果となっている。自己評価と園長評価にずれがある個人には、個別に理解を促したい。

全体的に見て評価の低い項目「⑧子どもの発達、成長を理解した保育を行っているか」「⑩遊具・玩具などの安全管理が行き届いた教育を行っているか」「⑫気になる子どもの保育、障がい児保育などについて理解し、実践できるか」「⑭保護者に対する適切な支援とはどのようなものかを把握し、実行できているか」「⑮指導計画などを適切に策定し、実行に反映するなど、計画的な保育が実践できているか」は、昨年度と共通していた。(詳細は「職員自己評価」参照)

評価の低かった項目を強化し、保育の質を向上させるためには、職員会議や研修を充実させる必要がある。通常の保育を行いながら、保育の質を向上させる時間を確保するためにも、職員採用の強化、人材育成に今後も力を入れていきたい。

職員自己評価では、自分の評価点、課題、成長したことなども書き出して自分を見つめなおしてもらった。これをもとに、よりよい太閤山あおい園を作っていきたい。

令和2年度以降に向けて

- ◎ 教育課程の見直しにあわせ、日々の保育計画、行事の見直し
- ◎ 行事・活動などを見直す際の保護者への丁寧な説明
- ◎ 教育理念の共通理解
- ◎ 時間外労働時間の低減
- ◎ 若い人材の育成・新規採用者の確保
- ◎ 園内研修の充実
- ◎ 職員による遊具・玩具点検の強化、ヒヤリハット事例の共通理解
- ◎ 気になる子、障がい児、アレルギー児への対応の研修、専門機関との連携の強化